

## 第4章 外国語活動

### 1 中学年における外国語活動導入のポイント

#### (1) 導入の趣旨

これまでの外国語教育の成果と課題等を踏まえて、新たに中学年の外国語活動が導入された。

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、一部の職種や職業だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定される。
- 外国語を通じて、言語や文化について理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどの確に理解したり適切に伝えたりする力を身に付けるために指導の充実が図られている。
- 児童の高い学習意欲、中学生の外国語教育に対する積極性の向上といった成果が認められる。一方で、学校段階間の接続の不十分さに課題がある。
- 外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、総合的・系統的に教科としての外国語を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視する。

#### (2) 導入の要点

##### ① 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくかという物事を捉える視点や考え方。外国語でコミュニケーションを図る「根本」となるもの。

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

##### ② 外国語活動の目標

外国語教育において育成を目指す資質・能力を明確にした上で、各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から設定している。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

#### 【知識及び技能】

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声との違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

#### 【思考力・判断力・表現力等】

身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

#### 【学びに向かう力・人間性等】

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

### ③ 英語の目標及び内容

#### ア 目標

外国語活動の目標を踏まえて、英語学習における領域別の具体的な目標が設定されている。

「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の五つの領域のうち、外国語活動においては、次の音声面を中心とした三つの領域について目標を設定している。

また、より弾力的な指導ができるよう、学年ごとではなく、2学年間を通した目標である。

#### 聞くこと

ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

「ゆっくりはっきり話された際」という条件がある。表現や話の内容まで聞き取るとは求められず、語句を聞き取ったり、おおよその内容が分かることに限られる。

イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。

ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

「読み方」とは、文字が示す音ではなく、文字の名称の読み方を指している。

外国語活動では、習得を求めないため文末は「～ようにする」としている。

#### 話すこと〔やり取り〕

ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。

児童が興味・関心を持つことを題材とし、必然性のある場面設定を行うことが必要。

イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の周りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

「簡単な語句や基本的な表現」とは、小学校学習指導要領の外国語に示されている語や連語、慣用表現、文を指している。その中から中・高学年という発達の段階に合ったものを適宜選択する。

#### 話すこと〔発表〕

ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、実物やイラスト、写真などを見せながら話す。話し手は、発表内容を明らかにすることができ、聞き手にとって分かりやすく情報を発信することができる。

イ 自分のことについて、人前で実物を見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

難しい語句や表現を暗記させて発表させることがないように注意する。

## イ 内容

### 知識及び技能

#### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

### 思考力、判断力、表現力等

#### (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で話したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを表現することを通して、身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

#### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

「思考力・判断力・表現力等」を育成するに当たり、「知識及び技能」に示す事項を活用して「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」の三つの領域ごと具体的な言語活動を通して指導する。また言語の働きに関する事項を適切に取り上げて指導する。

## 2 指導計画作成上の留意点

### (1) 指導計画の作成と内容の取扱い

指導計画の作成と内容の取扱いについては、次のような改善が図られた。第5学年及び第6学年並びに中学校及び高等学校における指導との接続に留意した上で指導計画を作成することが大切である。

- ・コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにする。
- ・言語活動で扱う題材については、我が国の文化や、外国語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとする。
- ・外国語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いて友達との関わりを大切にしたい体験的な言語活動を行う。

### (2) 障がいのある児童などへの指導

#### ○ 外国語活動における特色

外国語活動は、「外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」を育成することを目指すとしていることから、授業が音声中心で展開されることになる。このようなことから、特に音声による情報を処理することが困難な児童への配慮が大切になる。

#### ○ 外国語活動における配慮

音声を聞き取ることが難しい児童の場合、外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるよう、外国語の音声を文字で書いてみせる、リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表すなどの配慮が考えられる。

### 3 Q & A

**Q 1 外国語活動の目標や内容の中にある「身近で簡単な事柄」とは、具体的にはどのようなものですか。**

「身近で簡単な事柄」とは、児童がよく知っている人や物、事柄のうち簡単な語彙や基本的な表現で表すことができるものです。

例えば、学校の友達や先生、家族などコミュニケーションを図っている相手、身の周りの物や自分が大切にしている物、学校や家庭での出来事や日常生活で起こっていることなどが考えられます。

**Q 2 児童が主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、どのような指導が必要になりますか。**

外国語を使ってみようと感じられる、児童にとって身近で具体的な場面を設定します。その中で、「誰に」、「何のために」という「相手意識」や「目的意識」を持たせた上で、質問したり答えたりする必然性のある言語活動を展開することが必要です。

**Q 3 外国語活動の時間、年間 35 単位時間を確保するための、高学年の外国語と同じように 10 分～15 分程度の短時間学習で実施することはできますか。**

短時間の授業を行う際は、まとまりのある授業時間を確保した上で、両者の関連性を明確にして指導をする必要があります。したがって、年間 35 時間、週当たり 1 単位時間の外国語活動を短時間で実施することは、まとまりのある授業時間を確保する観点から困難です。

**Q 4 学級担任が中心になって指導を行うのがよいと言われますが、それはなぜですか。**

学習指導要領では、「学級担任の教師又は外国語活動を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施する」としています。初めて英語に出合う中学年の児童が、積極的にコミュニケーションを図りたいと思うためには、興味・関心のある題材や活動を扱うことが必要です。また、児童の気持ちをよく理解していて、より良い学習の環境を作り出すことも必要です。そのためにはやはり、学級担任の教師の存在は欠かせません。

また、外国語活動を専門に行う教師が授業を行う場合にも、学級担任と同様に初等教育や児童を十分に理解した上で授業を実施することが大切です。

**Q 5 外国語活動での文字指導は、どのように行えばよいのでしょうか。**

外国語活動では、アルファベットの読み方が発音させるのを聞いたとき、それがどの文字であるかが分かるようにします。文字の「名称」の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた大文字や小文字と結び付けたりするなど、どの活字体を表しているのかが理解できるようにします。

楽しみながら身の回りのアルファベットに慣れ親しんでいくことをねらいとし、児童の文字に対する興味・関心が高まるように指導します。